

Topics from within

TCCS/ICSSC 議事報告

宇宙通信株式会社 三浦正春

2005年4月20日(水)の午後にAIAA本部(米国ヴァージニア州Reston市)にて、TCCS(AIAA Technical Committee on Communications Satellite)委員会が開催されたので、その概要の報告と、同日TCCSに先立ち午前中にICSSC-2005 Planning Meetingが実施されたのでその概要も合わせて報告したい。

当日の出席者はTom Butashさんを初め計13名、その他電話会議出席者が7名であった。以下にその内容を示す。

ICSSC-2005 Planning Meeting

- (1) **Keynote and Plenary Sessions:** Keynoteは、イタリアの通信大臣となる。また、Plenary Sessionsの講演者人選は、政府及び産業界の高位の方に依頼をしているところであるが、まだ出席の確約を得られていない。プリリミナリプログラム策定に間に合わないと広報上の問題が生じると指摘あった。
- (2) **Colloquium:** Colloquiumに関する準備は、Topicsなどは確定していないものの順調である。AMのSessionは”Challenges”を、PMは”Broadbandや移動体など衛星通信の方向性に関するもの”となる。Regulatory問題に関する講演者も追加すべしとの要求があった。また、日曜日の有料の講演に出席したいと思わせるような興味を引くようなものにするべく、さらに努力すべしとの指摘もあった。
- (3) **Panel Sessions:** Technical Programの中で、4件のパネルSessionを計画している。テーマは、HDTV、衛星の信頼性、disaster mitigation system、及びRegulatory問題の予定である。
- (4) **Technical Program:** 5トラック/1件30分とすると162件の発表がMaxとなるが、現時点で168件のAbstractが集まっている。会議室をもう一部屋確保した上で、トラックを追加する方向である。また、発表テーマは、大部分がSatellite Networkに関するものであり、Satellite Technologyについてはほとんど無い。Abstractの受付締め切りは4月26日、査読終了が5月26日、プログラム確定が5月30日を進め、Aerospace America誌の8月号への掲載に間に合う。【注記: Abstract締切時点で225件が集まり、15件が不適、6件が取り下げで、204件となった。そのうち、Ka帯/Broadbandに関するものは、92件である。】
- (5) **Promotion:** TCCSから\$5Kの予算が承認されているが、AIAAからは入場者数が不明であることから、予算が認められておらず、有料の広告宣伝支出をできるだけ抑えろとのことである。

TCCS Meeting

Subcommittee Reports

- (1) **Steering Subcommittee – Membership (Butash氏):** NICTの門脇直人氏が、TCCSの新会員になった。また、他に、次の会員に所属の変更がある。
Jack Rigley氏: CRCを退職し、現在、ADGAグループに所属する。
風神裕氏: MELCOに所属していたが、現在、Advanced Space Business Corp.に所属する。
飯田尚志氏: NICTに所属していたが、JAXAのExecutive Directorに任命された
尚、4名のinactive会員は、前回の打ち合わせに出席があり、また1名のinactive会員は運営への協力しつつある。残るinactive会員には、働きかけを行っているところ。また、TCCSの秘書が、ICSSC-2005を機に辞任した。
- (2) **Awards Subcommittee (Smith氏):** Kul Bhasin氏が、NASAでの業務多忙につき議長を辞任した。後任は、Ron Smith氏である。尚、Kul氏は、Subcommitteeの会員としては残る。Ed Habib氏、北爪進氏、Gene Kopp氏、及びJoe Balcewicz氏がメンバーであることは変わりなし。ICSSC-2005でのAIAA Aerospace Communication Awardへ3名を推薦し、そのうえで、Chandra Kudsia氏をAwardsに決定した。
2006 Awardsの選定でも3名以上の推薦が必要であるが、その候補者はその前2年間はTCの会員であってはならないというルールを、AIAAは強化する。このルールは以前もあったが、今後、どのように運用されるかは不明である。(昨年候補者の1名はTCの会員であった。) 候補者は、AIAAの会員から選ぶという条件は、従来通りである。

- (3) ICSSC Revitalization (Butash 氏、Rey 氏の代理)： Raul Rey 氏のドラフトについて、1月の打ち合わせ以来、進捗なし。次回の9月25日の打ち合わせまでには、配布できる。
- (4) Publications Subcommittee (Hoerber 氏)： 年末の記事の締め切りは8月1日である。但し、1300wordsの制限がある。

ICSSC-2006 (Houston 氏)

- (1) ICSSC-2006 は、ISCe と会場を共用するが、プログラムとその出席登録は独立して行う。協賛企業を探しているところであり、ViaSat 社、Qualcomm 社、DirecTV 社、California Space Authority 等に当たっているところである。開催(2006年6月11~15日)までのマイルストーンスケジュールが示された。
- (2) Technical Chair の人選は進行中で、Larry Newman 氏が、その候補である。同氏は、西海岸の企業でも、また MILSATCOM でも、よく知られた方である。他に、John Logrando 氏(東海岸)、Rick Kocinski 氏(東海岸)、Chris Hoerber 氏(ICSSC-2004 で Chair だった)が候補に挙がっている。
- (3) Conference のテーマは、"Satellites Bridging the Future" か、"Satellite Bridges to the Future" を考えている。他にも、考えるべきテーマがサジェストされた。
- (4) ICSSC-2006 Planning Meeting は、11月か12月上旬に、SanDiego の Hilton ホテルで開催差売ることを提案された。

ICSSC-2007 (Eui Koh 氏、風神氏の代理)

Asia-Pacific Satellite Communications Council (APSCC)はソウルに本部を置き、Dr.Koh 氏が議長である。会員は約100名であり、6-7名の専従スタッフがいる。Dr.Koh 氏から、APSCC と JFSC との分担や今後のスケジュールなどの含め、ICSSC-2007 の計画が説明された。

ICSSC-2208 (Butash 氏)

米国の東海岸で開催予定で、2006年6月までには会場を決定する。

その他 Butash 氏から、飯田氏、Ed Ashford 氏、及び Joe Pelton 氏が、本を発刊したことの報告があった。

また、次回の TCCS 委員会は、2005年9月25日(日)に、ICSSC-2005 の会場である、Grand Hotel Palazzo Carpegna (イタリアのローマ市 Aurelia Convention Center 内)で、19:30 から開催されることになっているとの報告の後、閉会となった。

以 上